

説教題：ヨハネの手紙 第三

鍵となる聖句：ヨハネの手紙 第三3 - 4節 - 「兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいますが。⁴私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」

皆さん、おはようございます。質問があります。ヨハネの手紙 第三に関するメッセージを最後に聞いたのはいつですか？2週間前にも同じような質問をしましたが、ヨハネの手紙 第二の説教を最後に聞いたのはいつですか？これらの短い1章からなる書簡は見落とされがちなので、今回紹介することにしました。新約聖書の中にあるのですから、これほど短い手紙であっても、神がこれらの手紙を通して私たちに教えたかった重要なメッセージがあるはずです。二週間前、私はヨハネの手紙 第二の説教をしましたが、今日は、ヨハネの手紙 第三の説教をします。

2週間前、私はこれらの書簡の著者である使徒ヨハネについても紹介しました。使徒ヨハネは、主イエス・キリストの最初の12弟子の一人で、12弟子の中では最も若く、かなり高齢まで生きたようです。彼は5冊の新約聖書の著者と考えられており、そのすべてが紀元1世紀の終わり頃、おそらく紀元85年から紀元95年か96年の間に書かれました。これらの5冊の書物は、ヨハネの福音書、ヨハネの三書簡、ヨハネの黙示録です。これらの書物はヨハネによって書かれたので、私たちは「ヨハネ文学」と呼んでいます。伝承によれば、使徒ヨハネは晩年、エペソの町で宣教しており、周辺地域の教会を監督していたようです。ヨハネの手紙 第二と第三は、恐らく、この地域の教会に宛てて書かれたのでしょう。この二つの手紙の中で、ヨハネは自分の名前を使うのではなく、自分のことを「長老」と呼んでいます。

ヨハネの手紙 第二と第三の冒頭部分を見てみましょう。

ヨハネの手紙 第二1節 - 「長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。」

ヨハネの手紙 第三1節 - 「長老から、愛するガイオへ。私はあなたをほんとうに愛しています。」

両書簡の冒頭の挨拶を読んで気づくのは、ヨハネにとって真理というテーマがいかに重要であるかということです。 - 両方とも愛と真理です。

ヨハネの手紙 第二は、「選ばれた婦人」に宛てて書かれています。2週間前にお話ししたいくつかの理由から、この「選ばれた婦人」とは、おそらく特定の女性を指しているのではなく、ヨハネが教会の信徒に宛てているのでしょう。手紙は「選ばれた婦人とその子供たちへ」と書かれています。選ばれた婦人とは信徒全体のことであり、子供たちとは個々の教会員のことです。

ヨハネの手紙 第3で、長老はガイオという人物に向かって語っています。ローマ人への手紙 16章やコリント人への手紙 第一 1章に登場するガイオという人物と同一人物ではないかと考える人もいますが、ほとんどの聖書注解者は同一人物ではないと言っています。彼は、コリントの手紙のガイオと言う名前の人ではありません。そして、私たちは、ヨハネの手紙の中で言われていること以上、彼についてほとんど何も知りません。彼は地元の教会で何らかの役割を担っていたようですが、おそらく牧師ではないでしょう。

私は、これらの書簡が書かれた背景を調べているうちに、興味深い説を知ったので紹介したいと思います。その説によると、ヨハネの3つの書簡、ヨハネの手紙 第一、第二、第三は、ヨハネの手紙 第二に「選ばれた婦人」と記されている教会に向けて、3つの文書がセットになって届けられたのではないかと、いうのです。そして、おそらくガイオはその教会の重要人物なのでしょう。ガイオに宛てた個人的な手紙（これがヨハネの手紙 第三）と、信徒全体に向けて書かれた手紙（これがヨハネの手紙 第二）、そしてこのパッケージに加えられたのがヨハネの手紙 第一で、実は新約聖書の書簡の中ではかなり珍しい文書なのです。ヨハネの手紙 第一には、新約聖書のほとんどすべての書簡に見られるような、冒頭と結びの挨拶がありません。ヨハネの手紙 第一の著者は、自らを「長老」と呼ぶ人物から書かれたヨハネの手紙 第二や第三の手紙とは異なり、自らを名乗ることはありません。

ヨハネの手紙 第一には、著者の名前も挨拶も書かれていないことは、とても印象的です。新約聖書の手紙の典型的な冒頭と結びの例をお見せしましょう。

ピリピ人への手紙 1章 1-2節を見ましょう - 「キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。² どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

ピリピ人への手紙は4章 21節から 23節で終わっています。 - 「キリスト・イエスにある聖徒のひとりひとりに、よろしく伝えてください。私といっしょにいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。²² 聖徒たち全員が、そして特に、カイザルの家に属する人々が、よろしくと言っています。²³ どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。」

これは典型的な終わり方です。

しかし、ヨハネの手紙 第一はまったく違います。初めの挨拶も終わりの挨拶もなく、著者が自分を名乗ることもありません。その文書の最初と最後を見てみましょう。ヨハネの手紙 第一 1章 1-2節 - 「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目を見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、²——このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。——」

この手紙は、挨拶ではなく、最後の勧告で終わっています。5章 21節- 「子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。」

ヨハネの手紙 第一は非常に説教調で、典型的な挨拶文がないことから、先ほどお話しした説があります。おそらく、ヨハネの手紙 第一、第二、第三は、一つの教会に送られた一つのパッケージの一部であり、ヨハネの手紙 第一は、選ばれた婦人とガイオに宛てた二つの小書簡に添付された説教か小論文だったのではないかという説です。私はこの説が魅力的だと思ったので、皆さんに紹介します。ESV スタディ・バイブルをお持ちでしたら、ヨハネの手紙 第三の序文でこの説を読むことができます。

それでは、ヨハネの手紙 第二を少し復習しながら、ヨハネの手紙 第三を詳しく見ていきましょう。この二つの小書簡には、いくつかの共通点と相違点があります。思い起こせば、2週間前にヨハネの手紙 第二についてのメッセージを紹介したとき、私はこの手紙を3つの部分に分けました：

1. 真理のうちに歩むこと。
 2. 愛のうちに歩むこと。
- そして、手紙のトーンが変わり：
3. 欺く者に対する警告。

ヨハネの手紙 第三では、再び真理と愛について言及されています。その後、手紙のトーンが変わり、教会の一員である厄介な人物についての議論があります。私はこの手紙を3つの部分に分けました：

1. 真理のうちに歩み続けること。
2. 訪問するクリスチャンの働き人を忠実に支援すること。
3. 悪に倣わず、善に倣うこと。

では、この手紙を全部読んでみましょう。ところで、学者たちは、この手紙が新約聖書の中で最も短い手紙であることを指摘しています。ギリシャ語本文では 219 語しかありません。

ヨハネの手紙 第三1 - 15節 - 「長老から、愛するガイオへ。私はあなたをほんとうに愛しています。²愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。³兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいます。⁴私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。⁵愛する者よ。あなたが、旅をしているあの兄弟たちのために行なっているいろいろなことは、真実な行ないです。⁶彼らは教会の集まりであなたの愛についてあかししました。あなたが神にふさわしいしかたで彼らを次の旅に送り出してくれるなら、それはりっぱなことです。⁷彼らは御名のために出て行きました。異邦人からは何も受けていません。⁸ですから、私たちはこのような人々をもてなすべきです。そうすれば、私たちは真理のために彼らの同労者となれるのです。⁹私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになりたがっているデオテレペスが、私たちの言うことを聞き入れません。¹⁰それで、私が行ったら、彼のしている行為を取り上げるつもりです。彼は意地悪いことばで私たちをののしり、それでもあきたらずに、自分が兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたいと思う人々の邪魔をし、教会から追い出しているのです。¹¹愛する者よ。悪を見ならわなくて、善を見ならいなさい。善を行なう者は神から出た者であり、悪を行なう者は神を見たことのない者です。¹²デメテリオはみなの人からも、また真理そのものからも証言されています。私たちも証言します。私たちの証言が真実であることは、あなたも知っているところです。¹³あなたに書き送りたいことがたくさんありましたが、筆と墨でしたくはありません。¹⁴間もなくあなたに会いたいと思います。そして顔を合わせて話し合ひましょう。¹⁵平安があなたにありますように。友人たちが、あなたによろしくと言っています。そちらの友人たちひとりひとりによろしく言ってください。」

パート1：真理の中を歩み続けること。

ヨハネの手紙 第三3 - 4節 - 「³兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいます。⁴私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」

長老であるヨハネは、自分の「子供たち」について言及しています。これは、ヨハネ自身がキリストに導いた人々を指しているのかもしれないし、あるいは、ヨハネがこの地域の教会を霊的に監督していることから、ヨハネが世話をする責任を感じているクリスチャンを指しているのかもしれない。

これらの箇所では、「真理に歩む こと」の重要性に注目してください。これは、2週間前に見たヨハネの手紙 第2でも重要なテーマでした。

ヨハネの手紙 第二 4 節 - 「⁴私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。（私たちが、父から実践するための教えを受けたように）」

真理の中を歩むことはとても重要です。これは、キリスト教信仰の真実で基本的な教義に立つことだけを意味するものではありません。それはまた、それらの真理によって生きること、聖書にある訓戒に従って生きingことを意味し、そこには神の御心が啓示されています。私たちは神を敬う生き方をしなければならないのです。

私が持っている聖書注解書の一つにこうあります：

「真理のうちを歩む』とは、真理とは私たちが何を信じ、どのように生きるかということである。それは教義であり義務であり、信条であり行動である。素晴らしいバプテスト派の説教者、バンス・ハブナーはよくこう言っていた：「私たちが生きingことは、私たちが信じることである。それ以外のことは宗教的な話にすぎない。」

(ダニエル・L・エイキン、ヨハネの手紙 第一、二、三 38 卷、The New American Commentary (Nashville: Broadman & Holman Publishers, 2001), p. 225.)

ここで、これらの考えのいくつかを繰り返しましょう：

「真理とは、何を信じるかであり、どう生きるかである。」

「それは教義であり義務であり..... 信条であり行動である。」

私たちが生きingことは、私たちが信じることである。

つまり、あなたの生き方は、あなたが何を信じているのか、あなたにとって何が大切なのかを他の人々に示すということです。聖書を中心に生活をし、その戒めに従って生きようとするなら、あなたにとって何が大切かを示すことになります。それとは対照的に、もしあなたがクリスチャンだと主張しながらも、神に近づこうともせず、キリスト教的道徳に従って生きようもしないなら、誰かがあなたの信仰表明が本物かどうか疑うかもしれません。これがヨハネの手紙 第一の厳しいメッセージです。

ヨハネの手紙 第一 1 章 5 - 7 節を読みましょう - 「神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。⁶もし私たちが、神と交わりがあると言っているが、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行なってはいません。⁷しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

神は光であり、神のうちには暗いところはありません。神の子として、私たちは光の中

を歩み、真理の中を歩むことが期待されています。もし私たちが罪の暗闇の中を歩むなら、クリスチャンであるという主張は嘘になります。暗闇の中を歩いているということは、真理を実践していないということです。使徒ヨハネの大いなる願いは、霊的な子供たちが真理のうちを歩み、光の中を歩むことです。（ヨハネの手紙 第一 1章9節にあるように）罪を告白するとき、私たちは罪の赦しを受け、神の子どもとなります。それ以来、私たちの人生は、真理、愛、赦し、そして神としての振る舞いを特徴とする、神を敬う生き方によって示されるべきなのです。

ヨハネの手紙 第一1章9節 - 「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

これが、パート1：真理の中を歩み続けること。

では、パート2に移りましょう：訪問するクリスチャンの働き人を忠実に支援する。

ヨハネの手紙 第三5-8節 - 「⁵愛する者よ。あなたが、旅をしているあの兄弟たちのために行なっているいろいろなことは、真実な行ないです。⁶彼らは教会の集まりであなたの愛についてあかししました。あなたが神にふさわしいしかたで彼らを次の旅に送り出してくれるなら、それはりっぱなことです。⁷彼らは御名のために出て行きました。異邦人からは何も受けていません。⁸ですから、私たちはこのような人々をもてなすべきです。そうすれば、私たちは真理のために彼らの同労者となれるのです。」

5節には「兄弟たち」とあり、その中にはこの地方教会にとっては「見知らぬ者」もいます。これは、ヨハネによって派遣され、周辺地域の諸教会で宣教した巡回伝道者たちのことを指しています。これらの伝道者の中には、ガイオの教会に来て宣教した者もいます。これらの巡回伝道者の中には、ガイオが知っている者もいれば、見知らぬ者もいました。それにもかかわらず、彼らはヨハネによって派遣されたので、ガイオは彼らを歓迎し、5節では、ヨハネがこれらの訪問者の必要を満たすために忠実に行動し、自分の信徒たちにメッセージを伝える機会を与えたことを称賛しています。6節によれば、これらの牧師たちは、ガイオがこれらのクリスチャンの兄弟たちを愛していることを積極的に証しして、ヨハネのもとに戻ってきました。彼は彼らを歓迎し、伝道の旅に出る彼らを助けました。

ヨハネは7節で、この兄弟たちが「御名のために」、つまり世の救い主であるイエス・キリストの御名のために伝道活動に送り出されたことを指摘しています。彼らは異教徒から金銭的な援助を求めたり、受け入れたりしませんでした。そうすることによって、福音の真理を広めるという彼らの良い働きに参加することになるからです。

これは、私の好きな聖書の聖句を思い出させます。それは、使徒パウロのコリント人への手紙 第二の手紙にあります。

コリント人への手紙 第二 8 章 1-5 節 - 「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。² 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。³ 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ…」

コリントの兄弟姉妹たちに対して、パウロは、マケドニヤの諸教会が、さまざまな苦難にもかかわらず、また極度の貧しさにもかかわらず、キリスト者の兄弟たちに経済的支援を惜しみなく提供していることへの感謝を述べています。

続けて 3 節から、もう一度読みましょう。 - 「私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、⁴ 聖徒たち（神の民）をささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。⁵ そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。」

彼らは自分の能力を超えて、聖徒たち、神の民に自発的に支援を提供しました。それ以上に、彼らは聖徒たちの支援に参加することを非常に熱望していました。そして、パウロにとってさらに驚くべきことは、マケドニヤのクリスチャンたちが経済的な支援をささげる前に、まず自分たち自身を主にささげたことです。彼らは自分自身を主に、そしてパウロと彼の同労者にささげたのです。

こうあるべきです。私たちは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストに、私たちの心と精神とエネルギーのすべてを捧げます。そうすれば、金銭的な献金も含め、他のすべての献金は簡単にできるようになります。

クリスチャンの働き人を経済的に支援するということは、彼らの働きに参加するということです。

それでは、ヨハネの手紙のトーンが変わるパート 3 に移りましょう。

パート 3 : 悪いことに倣わず、良いことに倣いなさい。

ヨハネの手紙 第三 9-11 節 - 「⁹ 私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになりたがっているデオテレペスが、私たちの言うことを聞き入れません。¹⁰ それで、私が行ったら、彼のしている行為を取り上げるつもりです。彼は意地悪いことばで私たちをののしり、それでもあきたらずに、自分が兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたいと思う人々の邪魔をし、教会から追い出しているの

です。¹¹ 愛する者よ。悪を見ならわなさい、善を見ならいなさい。善を行なう者は神から出た者であり、悪を行なう者は神を見たことのない者です。」

教会の中にデオテレペスという男がいて、彼は問題児でした。それがどこの教会なのかはわかりません。ガイオが属している教会と同じ教会かもしれないし、ガイオが知っている近隣の別の教会かもしれません。デオテレペスがどのような指導的立場にあるのかはわかりませんが、彼はある程度の説得力を持っており、教会の中でそれを行使することができました。彼は教会で目立つ地位を持つことが大好きな人物で、教会のためになること、福音の伝播のためになることよりも、利己的な野心に突き動かされていることが明らかでした。このような人物に教会の指導者になってもらいたいとは思いませんが、残念ながら、教会の歴史上、利己的な野心を持った人物が、公式であれ非公式であれ、教会の指導者の地位を手に入れることはしばしば起こっています。10 節には、このデオテレペスという男が、使徒ヨハネ自身を意地悪い言葉でののしつたとあります。さらに彼は、ヨハネが教会を訪問するために派遣した巡回伝道者たちを受け入れませんでした。実際、その信徒たちがこの兄弟たちを迎え入れようとしたとき、デオテレペスはそれを拒み、その信徒たちを教会から追い出すことさえしました。ヨハネは、自分がその教会を訪れ、この男の傷つけるような言動に対して声を上げたことを示しています。

デオテレペスは、あなたが教会の指導者に望むタイプではありません。使徒パウロがテトスへの手紙の中で、教会指導者に望まれる資質について書いたものを読みましょう。

テトスへの手紙 1 章 7-8 節 - 「監督は神の家の管理者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気でなく、酒飲みでなく、けんか好きでなく、不正な利を求めず、⁸でなく、酒飲みでなく、けんか好きでなく、不正な利を求めず、」

牧師や監督は「非難されるところのない者」でなければなりません。自己中心的であってははいけません。闘争的であってはなりません。むしろ、もてなしの心を持ち、自制心があり、聖なる者であり、規律正しい者でなければなりません。

使徒ペテロも言っている。

ペテロの手紙 第一 5 章 1-3 節 - 「そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。

² あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。³ あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。」

ペテロが長老たちに勧めていることはこうです。神の羊の群れを牧し、貪欲にならずに.....そして3節にあるように、「その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となる」ことを証明することによって監督することです。

羊飼いは群れを世話すべきであり、群れを支配すべきではありません。羊飼いは群れの模範であるべきです。すなわち、愛と謙遜と敬虔をもって、クリスチャンとしての生き方を示す模範であるべきです。羊飼いはイエス・キリストを模範とするべきです。

さて、ヨハネの手紙 第三に戻りましょう。11節をもう一度読みましょう - 「愛する者よ。悪を見ならわないうで、善を見ならいなさい。善を行なう者は神から出た者であり、悪を行なう者は神を見たことのない者です。」

悪を模倣せず、善を模倣しなさい。デオテレペスの真似をしてはいけません。善いものを真似してください。イエスは私たちの最高の模範です。私たちはまた、神的な男女を模範とすることもできます。

コリント人への手紙 第一 11章 1節で、使徒パウロはこのように書いています。「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください」。

ヘブル人への手紙 13章 7節を読みましょう - 「神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。」

ヨハネの手紙 第三に戻って12節を見ましょう。そこには、善を行うひとりの人間のことが書かれている。

ヨハネの手紙 第三12節 - 「デメテリオはみなの人からも、また真理そのものからも証言されています。私たちも証言します。私たちの証言が真実であることは、あなたも知っているところです。」

はヨハネからこの教会に派遣されているようだ。おそらく、デメテリオがこの手紙をガイオに手渡したのでしょう。ヨハネは、デメテリオを良い証しをする人、真理に従って歩む人として称賛しています。

ヨハネの締め言葉を読みましょう。

ヨハネの手紙 第三13-15節 - 「¹³あなたに書き送りたいことがたくさんありましたが、筆と墨でしたくはありません。¹⁴間もなくあなたに会いたいと思います。そして顔を合わせて話し合ひましょう。¹⁵平安があなたにありますように。友人たちが、あなたによろしくと言っています。そちらの友人たちひとりひとりによろしく言ってください。」

長老は、ヨハネの手紙 第二の終わり方と同じように、ヨハネの手紙 第三をこう締めくくっています。長老は近い将来、ガイオに会うことを期待しています。

本日のメッセージはここまでとします。最後に、今日の説教のアウトラインを構成した3つの警句と、それに加えて1つの警句を思い出して終わりにしたい：

真理、すなわち正しい教理と神的生活様式に歩むこと。

クリスチャンの働き人を忠実に支援すること。そうすることによって、彼らの働きに参加することになる。

悪に倣わず、善に倣いなさい。

そして教会の指導者たちの皆さんへ、私は繰り返しこう勧めます。群れを支配してはいけません。羊飼いは群れの模範であるべきです。クリスチャンとしての生き方の模範であるべきです。